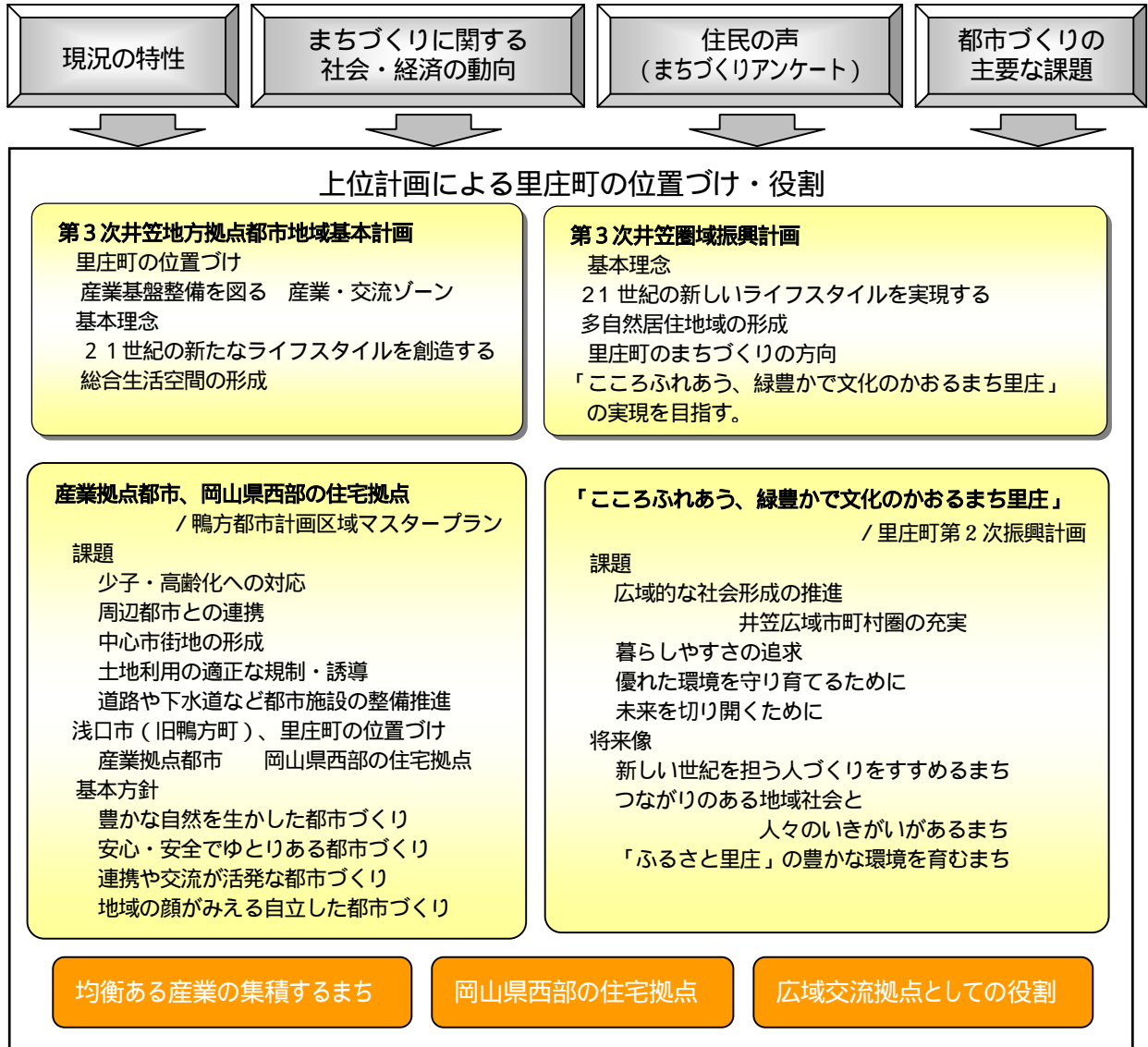


IV. 将来目標の設定

1. 基本理念

里庄町都市計画マスタープランは、県が策定する鴨方都市計画区域マスタープランや町が策定する第2次里庄町振興計画の目指すべき将来像を実現するために、その一端を担うものです。

このため、上位計画の理念を踏まえ、都市づくりのテーマを次のように設定します。

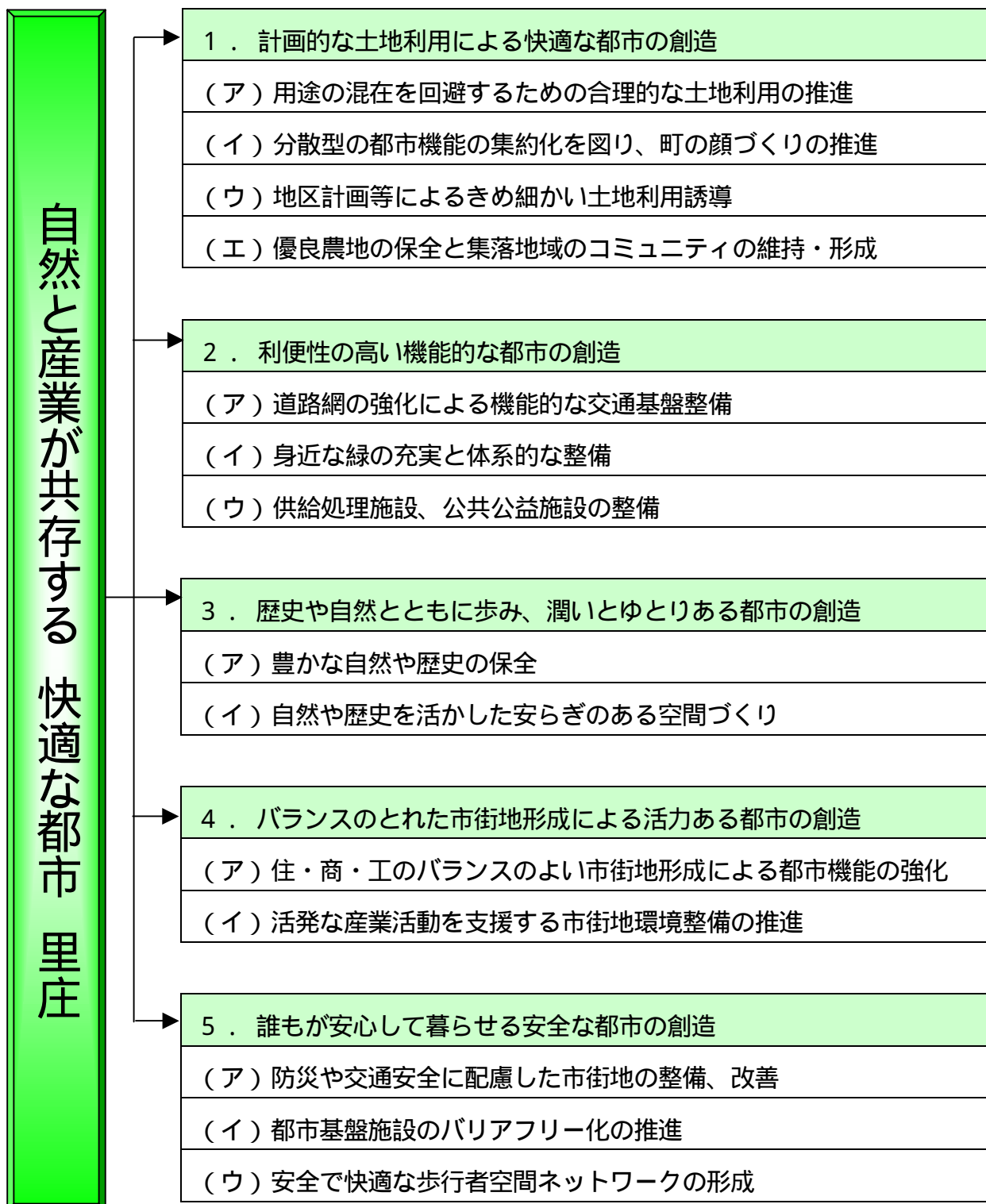


都市づくりのテーマ
自然と産業が共存する 快適な都市 里庄

里庄町らしさを表すキーワード（アンケート調査より整理）
 明るい、笑顔、安心、ふれあい、優しさ、思いやり、活力、活気、教育、協調、共生、健康、心豊か、子育て、自然、福祉、住み良い、文化かおる、緑豊か など

2. 都市づくりの基本目標

都市づくりのテーマに沿って、めざすべき将来像の実現のために、まちづくりの基本目標を次のように設定します。



3. 将来目標値

(1)人口は現状と同程度を想定

平成17年10,822人



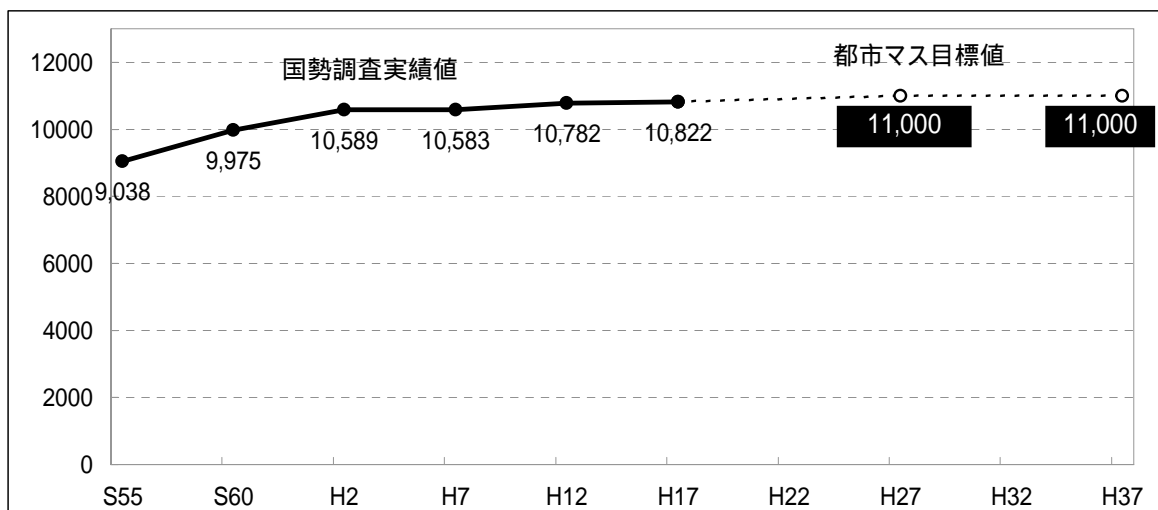
平成27年11,000人

昭和55年から平成17年の国勢調査による人口動向を見ると、増加傾向を示しています。これは、国道2号沿道への工場立地と大規模な住宅団地開発が進んだことや小規模な住居系開発が近年も続いていることに起因していると考えられます。また、平成12年以降の人口動向を住民基本台帳（各年10月1日）で補足すると、微増傾向にあります。

一方、第2次里庄町振興計画では、振興計画の推計値や国の人口動向からみると、今後大きな人口増加の要因はないことから、平成22年の人口は11,000人となると予測しています。

現時点において、大規模な人口増加要因を持ち合わせていないことから、都市計画マスタープランにおいては、振興計画と同様に11,000人を将来目標人口として設定します。

行政区域人口



(単位:人)

区分	実績値						目標値・推計値				備考	
	S55 1980	S60 1985	H2 1990	H7 1995	H12 2000	H17 2005	H22 2010	H27 2015	H32 2020	H37 2025		
国勢調査	9,038	9,975	10,589	10,583	10,782	10,822	注)H17は速報集計です。					
第2次里庄町振興計画					10,782		11,000					
目標人口							11,000		11,000			
住民基本台帳	H12 10,967	H13 11,047	H14 11,063	H15 11,108	H16 11,102	H17 11,049	資料:国勢調査(各年10月1日) 住民基本台帳(各年10月1日)					

(2)世帯数は少数世帯規模が増加

平成17年3,624世帯



平成27年4,000世帯

本町の人口は、出生数や流入人口等の鈍化に伴い微増しているものの、世帯数においては、分家や単身世帯の増加により増加傾向が続くことが予想されます。また、過去の世帯規模の動向（趨勢）から、平成27年の世帯規模は2.74人/世帯と予測されることから、目標人口より、平成27年の目標世帯数を4,000世帯と設定します。

(単位:人、世帯、人/世帯)

区分	実績値						目標値・推計値				備考
	S55 1980	S60 1985	H2 1990	H7 1995	H12 2000	H17 2005	H22 2010	H27 2015	H32 2020	H37 2025	
人口(国勢調査)	9,038	9,975	10,589	10,583	10,782	10,822		11,000		11,000	人口
世帯数(国勢調査)	2,422	2,755	3,009	3,199	3,451	3,624		4,000		4,400	÷
世帯人員(人口/世帯)	3.73	3.62	3.52	3.31	3.12	2.99	2.87	2.74	2.62	2.50	趨勢
住民基本台帳	H12 3,561	H13 3,624	H14 3,696	H15 3,755	H16 3,830	H17 3,849	資料:国勢調査(各年10月1日) 住民基本台帳(各年10月1日)				

注)国勢調査の平成17年数値は速報集計です。

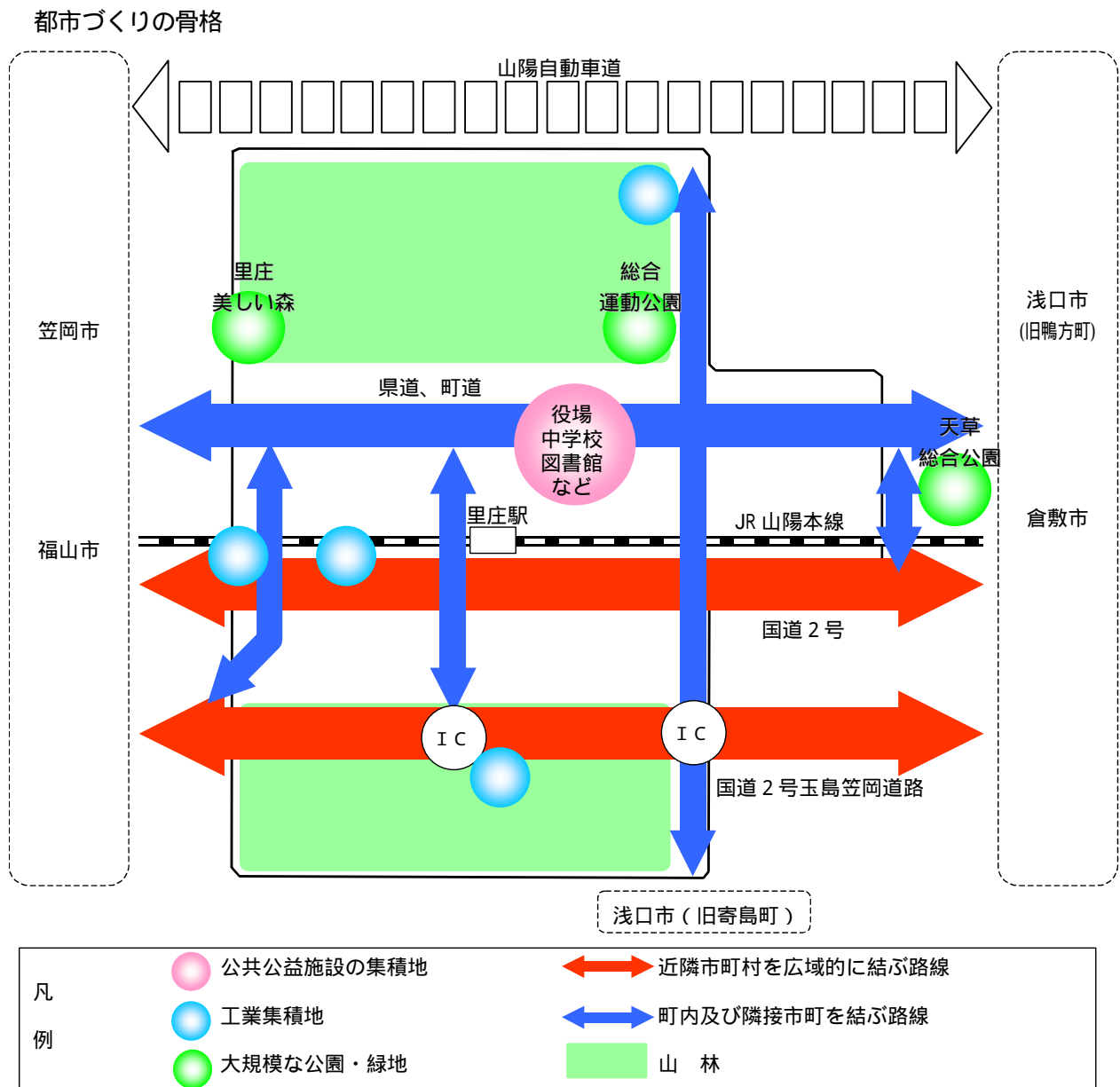
4. 将来の都市構造

(1) 都市づくりの骨格

本町の都市構造は、南北の山林とそれに挟まれた平地部が、道路や鉄道に沿って構成される市街地空間とそれを取り巻く田園空間で構成されています。本町はこれまでに、都市拠点（都市に必要な機能の集積地）として、自然資源を活かしたレクリエーション施設の整備や住宅地開発及び企業立地を計画的に誘導してきました。また、役場を中心としたエリアに、教育施設や図書館等の文化施設の整備を行ってきました。

今後、国道2号玉島笠岡道路や総合運動公園の整備が進むことから、新たな施設整備に対応した都市構造を考慮する必要があります。

このため、本町においては、既存の都市拠点と整備予定の路線を含めた主要な東西軸及び南北軸とのネットワーク化を図りながら、良好な都市づくりを進めていきます。



(2) 将来都市構造

現在の土地利用や道路、公園などの都市基盤施設（都市施設）が策定する鴨方都市計画区域マスタープランや町が策定する里庄町振興計画をはじめとする上位・関連計画を踏まえ、20年後の都市構造を次のように設定します。

なお、将来都市構造とは、都市機能の集積を目指す「拠点」、道路を中心に都市活動を支える「都市軸」及び集約的な土地利用を目指す「ゾーニング」を基軸として構成します。

地域間相互の結びつきを強化する5つの交通軸

本町の市街地は、主に国道沿いの東西方向に形成されており、国道2号を主体として5つの交通軸を形成します。

国土連携軸	<ul style="list-style-type: none"> 山陽自動車道は近畿と九州とを結ぶ国土連携軸として位置づけます。
広域連携軸	<ul style="list-style-type: none"> 国道2号は、都市の骨格を形成し、隣接市町村を結ぶ広域連携軸として位置づけます。 国道2号玉島笠岡道路は、岡山県西部地域における交通混雑の緩和及び交通安全の確保を目的とした広域連携軸として位置づけ、整備促進に努めます。
都市間連携軸	<ul style="list-style-type: none"> 町内をおおむね南北に走る主要地方道は、隣接市町との連携強化を図り、広域連携軸を結ぶ都市間の交流軸として位置づけます。
地域連携軸	<ul style="list-style-type: none"> 広域連携軸及び都市間連携軸を補完する一般県道を地域連携軸として位置づけます。
主要生活軸	<ul style="list-style-type: none"> 役場や公共公益施設、住宅地を結ぶ日常生活の主たる道路として位置づけます。

都市の魅力と利便性を高める3つの拠点

国道2号に沿って連続した市街地を主体としながら、産業活動や余暇を楽しむ拠点をそれぞれ配置します。

都市機能 中心拠点	<ul style="list-style-type: none"> 役場を中心としたエリアについては、行政施設や文化施設が集積した都市機能の向上を図るエリアとして位置づけ、魅力ある市街地形成に努めます。
産業拠点	<ul style="list-style-type: none"> 既存の工業地や工業団地を産業拠点として位置づけ、産業機能の充実を図ります。
レクリエーション 拠点	<ul style="list-style-type: none"> 虚空蔵山周辺の里庄美しい森は、自然とのふれあい拠点として位置づけ、その充実を図ります。 里庄町総合運動公園は、スポーツ・レクリエーション拠点としての整備を図ります。

自然環境に配慮したまとまりある3つのゾーニング

自然環境の保全を基本としつつ、都市計画法及び農地法や農振法（農業振興地域の整備に関する法律）、森林法、その他関連する法令と連携しながら、土地利用の保全と有効活用を図ります。

工業・沿道 サービスゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 国道2号沿道には、工場やサービス業、飲食店等の立地がみられ、今後も引き続き、工業・沿道サービス施設等の誘導を図ります。
田園共生 ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 農地及び集落については、良好な田園と集落が共生するゾーンと位置づけ、適正な土地利用の誘導を図ります。 特に、まとまりのある良好な農地及び営農意欲の高い農地については、保全を図ります。
緑地保全 ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 北部及び南部の山林については、緑地保全ゾーンとして位置づけ、自然景観資源や水源の涵養、災害の防止などのため、保全に努めるとともに、レクリエーション拠点整備にあわせて保全と活用を図ります。

前述した、都市づくりの骨格を基に、都市機能の集積を目指す「拠点」、道路を中心に都市活動を支える「都市軸」及び集約的な土地利用を目指す「ゾーニング」を基軸として、将来都市構造を以下のように整理します。

将来都市構造図

